

あらし

事業の目的

JR東中神駅北側に位置する基地跡地において
核都市にふさわしい広域的な機能や業務・商業機能等の導入を図り
緑豊かで良好なまちづくりを実現する。

土地区画整理事業の概要

【名称】

昭島都市計画事業及び立川都市計画事業
立川基地跡地昭島地区土地区画整理事業

【交通】

JR青梅線東中神駅より徒歩1分

【地区面積】

66.1ha

【所在地】

昭島市（福島町、築地町及び中神町の各一部）
立川市（泉町の一部）

【土地所有者】

財務省、法務省、東京都、民有地

【事業期間】

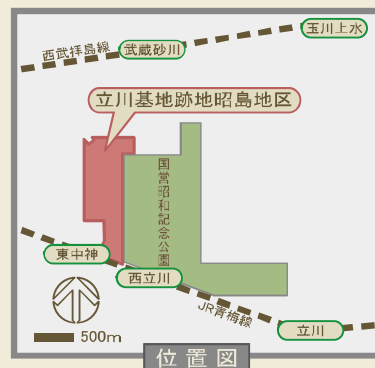
平成24年度～平成28年度（清算期間を除く）

【事業手法】

土地区画整理事業（法3条の2：機構施行）

【事業費】

約101億円



立川基地昭島地区 土地利用計画図

「国土地理院撮影の空中写真（2008年撮影）」

独立行政法人 都市再生機構

東日本都市再生本部

発行 事業推進部 東京西部都市再生事務所
企画 基盤整備部 緑環境第1チーム

NATURAL

UR都市機構が行う環境配慮の取り組みを
『NATURAL UR（ナチュラル・ユーアール）』として紹介しています。

※ このパンフレットは、再生紙を使用しています。

立川基地跡地昭島地区



ENVIRONMENT-FRIENDLY

環境に配慮したまちづくり

【賑わいと活気あふれる都市空間】

【環境保全や緑の充実、景観に配慮した街】

【質の高い生活空間】

UR都市機構は人と自然が調和するまちづくりに取り組んでいます



街に、ルネッサンス



UR都市機構

立川基地跡地昭島地区とは

当地区は、東京都昭島市福島町の東部に位置し、立川市泉町の一部を含んだ約70haの区域になります。昭和52年の基地返還後、留保地として長い間、地域に閉ざされていました。

計画地の土地利用の考え方としては、「立川基地跡地昭島地区利用計画」（東京都、昭島市、立川市、平成20年6月）で、次の3点が示されています。

- 核都市の複合市街地にふさわしい賑わいと活気あふれる都市空間の形成
- 国営昭和記念公園等を生かし、環境保全や緑の充実、景観に配慮した街の形成
- ゆとりある空間を生かし、質の高い生活空間の形成

配慮01

自然環境

基地返還後、敷地内は樹林化が進み、貴重な動植物が生育・生息する環境が形成されています。都市部において、稀少な自然環境を保全するため、木本植物・草本植物・中型哺乳類・猛禽類等を対象に、様々なアプローチから保全のための検討を行い、取組を実施しています。

■ 現地調査の実施

動植物の保全対策を検討するため、現地調査を実施し動物や植物の生育状況等を確認しました。

調査結果は、地区の土地利用計画や公園計画へフィードバックし、自然環境への影響を最小限に抑えるよう配慮しています。



現地調査実施状況

■ 計画地で見られる主な樹木

敷地内には地域の風土を形成する樹木や稀少な動植物が生育・生息しています。



ムクノキ ヤマザクラ オオシマザクラ コナラ クヌギ エノキ

■ 大径木の移植



移植木の掘り取り状況

移植木の運搬状況

公園整備計画

公園では地形改変をできる限り小さく抑え、既存木を活用した樹林地を確保することで、国営昭和記念公園から続く一体的な緑の確保に努めています。

■ 国際法務総合センターの整備計画

住民ワークショップを昭島市・法務省・URの共同で実施し、公園と法務省関連施設の一体的な利用が可能なオープンスペースとして、西側の緑道や北側のグラウンドを整備する計画としました。

■ 昭3・2・11 国営公園西線

地区の中央を南北に縦断し、メタセコイヤの並木により地区のシンボル軸を形成します。

■ 駅前交通広場

■ 環境保全用地の設定

稀少猛禽類等の営巣環境を確保するため、国営昭和記念公園や残堀川沿いの緑との連続性に配慮し、可能な限り広い面積の緑地を確保し保全を図っています。

配慮02

地域・歴史

公園整備にあたっては、地域住民や地元自治会などの参加によりワークショップ形式の検討会を実施し、広く市民の意見を取り入れながら公園整備の基本的方向性を設定しました。また、当地区に残る玉川上水柴崎分水路や中神引込線の廃線跡などの歴史的資源を活用し、地域性に配慮した計画設計を行っています。



1号公園 ワークショップ実施状況

1号公園 樹木保存状況

3号公園 廃線跡の状況

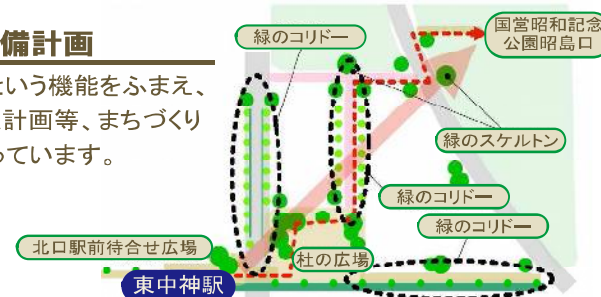
配慮03

地区景観

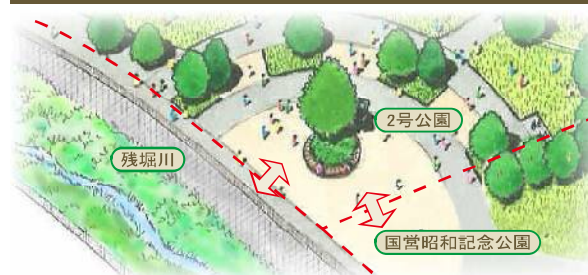
当地区は、国際法務総合センターや国営昭和記念公園、一級河川残堀川と隣接しているほか、南側ではJR青梅線と接しており、周辺環境との調和に配慮した一体的なまちづくりを行っています。

■ 駅前交通広場の整備計画

「まちの顔」「交通結節点」という機能をふまえ、まち全体の景観形成、動線計画等、まちづくりの観点での計画設計を行っています。



■ 国営昭和記念公園 玉川上水口の一体的利用



2号公園は、国営昭和記念公園や残堀川管理用通路と一体的に利用できる空間として整備計画を策定しています。

配慮04

水・土

近年多発している「都市型水害」に対し、雨水流出抑制施設の設置を積極的に行い水環境の保全に貢献しています。これらの浸透施設の一部には、地区内で発生した立川礫層の玉石を有効活用しています。また、事業の実施に伴い発生したコンクリート殻は、路盤材や構造物基礎材料として利活用することで、事業コストの縮減や環境負荷の低減を図っています。